Water & Mud Newspaper

水泥新聞

2026年（令和8年）11月5日

第112号

編集

フジクリーン株式会社
〒460-0002
愛知県名古屋市中区丸の内一丁目16番15号
名古屋シミズ富国生命ビル14階
TEL 052-733-0325



農業集落排水処理施設から個別浄化槽へ 牧之原市のロードマップ

1983年に農林水産省が「農業集落排水事業」を創設して以降、各地で整備された農業集落排水処理施設（以下、農集排）。現在は施設の老朽化や人口減少により、多くの自治体が維持管理や莫大な更新費用の壁に直面。今回は、農集排を廃止し個別浄化槽への転換を決断した静岡県牧之原市の取り組みを紹介する。



▲牧之原市笠名地区農業集落排水処理施設

笠名地区を支えた農集排

静岡県牧之原市の南部に位置する笠名地区の農集排は、農村集落の混住化や生活様式の変化による水質汚濁の改善を目的に、合併前の旧相良町が「農村総合モデル 農業集落排水事業」として実施。事業費約5.78億円をかけて整備し、平成8年4月に供用を開始。現在も63世帯約180人が利用しており、同地区における生活雑排水処理を四半世紀にわたり支えてきた。

老朽化と企業会計化という壁

令和元年に実施した機能診断により、管路やマンホールは良好な一方で電気設備や機械設備の経年劣化が確認された。さらに国から令和5年度までに企業会計化の方針が示されたことで、機器更新を含む全費用を利用者からの使用料で賄う独立採算制への移行が必要に。しかし独立採算制で事業を継続すれば、住民負担は従来の月額2,477円から36,070円と約14.6倍に跳ね上がることが判明した。

住民負担なしで個別浄化槽へ

この状況を受け将来負担する費用を試算した結果、独立採算制で農集排を維持し続けるよりも、市が転換費用を全額負担してでも個別浄化槽へ移行した方が、13年後には市の負担総額が低くなるとの結論に至った。また、農集排導入当時、新設の浄化槽を取り壊して市の事業に協力した住民がいたことから、市は設置から宅内配管の接続まで全額公費で負担し、転換時の住民負担をゼロとする決断を下した。

未来を見据えた転換への歩み

住民との合意形成にあたっては、まず地区役員等へ事前説明を行い、段階的に理解を深めた。実務面では、市が一括発注するのではなく、管工事組合と連携し、各戸の担当業者を割り振る独自の施工体制を構築。この体制のもと、転換工事は令和6年度から年間約20世帯のペースで実施されている。翌年度に向けた現地確認や見積り取得などの準備も並行して行っており、令和8年度の全戸転換完了後に処理場を閉鎖する予定としている。



▲個別浄化槽設置の様子

個別浄化槽転換までの主なプロセス

令和3年度頃	経営状況を試算し、個別浄化槽への転換を検討。市長・議会へ説明
令和4年度	地区役員・住民への説明、施工業者の割り振り、現地調査・見積り
令和5年度	長期利用財産処分報告書を農政局へ提出（4月）／農政局受理（11月）
令和6年度	第1期20基を設置。設置世帯から個別処理へ切替
令和7年度	第2期21基を設置
令和8年度	第3期22基を設置し、全戸の転換を完了予定
令和9年度以降	管路切替、処理場閉鎖、既存管路の放流管利用へ

牧之原市の担当職員に聞きました 転換プロジェクトQ&A

私たちがお答えします！



◀ 西尾 亘氏
環境課 環境衛生係 主任
令和４年度から環境課に所属。令和４～７年度において浄化槽設置事業補助金を担当。



◀ 坂口 愛実氏
環境課 環境衛生係 主任
令和７年度から環境課に所属。令和８年度において浄化槽設置事業補助金を担当。



◀ 田形 正典氏
産業経済部 農林水産課
基盤整備係 主幹
農集排廃止に向けた現場の利害調整・実務を担当。現在は農村地域のインフラ整備に従事。

Q 住民への説明は、どのような手順で行いましたか？

A 最初から全住民を集めるのではなく、まずは地区役員や農集排の管理組合関係者など地域の中心となる方々へ丁寧に事前説明を行い、理解を得ることから始めました。そのうえで、設置対象となるエリアを３期に分け、工事の前年にそれぞれ住民説明会を実施。説明会では、転換理由や費用、施工業者、工事時期、転換後の維持管理（法定検査・清掃・保守点検）についてお話ししました。特に住民の皆様が気にされる処理水の放流先についても、明確にお伝えしています。また、お配りした住民説明資料には、対象者名簿や設置予定箇所図、事業スケジュールのほか、設置工事と手続きの流れ、留意事項、交付決定通知書の見本なども網羅。資料を用いることで、住民の皆様が具体的なイメージを持ち、安心して手続きを進められるよう細心の注意を払っています。



Q 廃止予定の農集排や管路について今後の方針を教えてください。

A 農集排から個別浄化槽へ転換する以上、最終的には既存の処理施設を廃止する必要があります。ただし、管路の一部は浄化槽処理水の放流先として再利用するため全撤去ではありません。一方で、処理場本体や上屋、処理槽などを今後どこまで撤去・残置、あるいは転用するかはこれからの課題です。現時点では、処理場を地区の資料館や防災備蓄庫として活用する案も視野に入れ検討しています。

Q 今回の転換プロジェクトで活用した補助金について教えてください。

A 今回は農集排の廃止に伴う市都合の転換であり、通常の浄化槽補助事業とは性質が異なります。そのため、実務を担う農林水産課が新たに本件専用の補助要綱を定め、それに則って手続きを進めています。財源となる国費については環境省の「循環型社会形成推進交付金」を活用しており、庁内では国費の取りまとめを環境課が担い、専用要綱に基づく申請や実務処理を農林水産課が所管するという連携体制をとっています。転換後は個人設置型の浄化槽となるため、維持管理や清掃、法定検査については各戸の責任で行っていただきます。

Q 同じような課題を抱える自治体へアドバイスをお願いします。

A 個別浄化槽への転換を進めていく上で最も注意を払った点は、地元の理解です。丁寧な説明や対応を心掛け、疑問や不安を一つずつ解決していきました。このようなことから役員の中に理解を示していただける人がいて、地区にも広がっていきました。転換までの期限が迫られている中、また他に事例が少ない中での実務だったため、手探りの中にも課内、庁内で検討、調整を繰り返し進めてきました。ようやく転換の最終年度となり個別浄化槽の設置は順調に進んでいますが、今後の処理施設の廃止や既設管路の維持等の課題があります。転換事業によって、行政においても、地域においてもお互いに利益が得られることを理解していただくことが重要です。個別浄化槽への転換で、各世帯が責任を持って浄化槽を管理し、地域が一体となり環境意識が高まることを期待しています。

牧之原市ってどんな街?

静岡県中部の南に位置する牧之原市。東は穏やかな駿河湾に面し、北には日本有数の大茶園、牧之原台地が広がる自然豊かな地域だ。人口は約４万1,000人（※令和８年９月末時点）。年間を通して温暖な気候に恵まれ、日照時間も全国トップクラスを誇るなど、非常に暮らしやすい環境が整っている。

観光スポットとしては、遠浅で美しい白砂が続く静波海岸が有名で、夏は多くの海水浴客でにぎわう。近年は日本初の大型造波プールを備えた静波サーフスタジアムも誕生し、マリンスポーツの聖地として熱い注目を集めている。

ほかにも豊かな大地が育む特産の牧之原茶（深蒸し茶）や、駿河湾の新鮮なしらす、風味豊かな自然薯などの美味も人気。海と緑の恵みを存分に味わえる、魅力あふれる街である。



▲茶園から市街地、富士山を望む